

『視線入力を利用した意思の疎通』

1. 活用した ICT ツール・アプリ

- ・ Tobii Dynavox PCEye5
- ・ Miyasuku EyeConLT2
- ・ Microsoft PowerPoint
- ・ パソッテル(固定具)

2. 活用方法、活用の様子

対象生徒： 自立活動を主とした教育課程の生徒

授業の形態： (日生・朝の会 自立活動 (コミュニケーション) 国語)

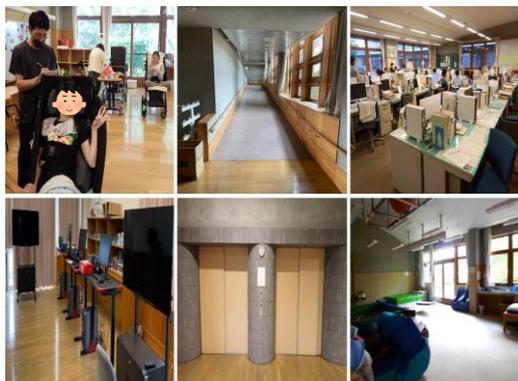
目的： 的確な意思の疎通や円滑なコミュニケーションをするため

活用方法・活用の様子

①朝の会：日付や天気、給食の献立の確認



②自立活動 (コミュニケーション)：行きたい場所や話したい先生を選ぶ



③国語：写真と名前のマッチング



3. 成果・取り組みをした結果

- ・対象生徒が2つの選択肢から選ぶとき、最初に何度か見比べていることが分かり、対象生徒の実態に適した選択肢の提示をできるようになった。
- ・的確な意思の疎通ができたことで、生徒との関係が深まった。
- ・選択肢の中から好きなものを選ぶ活動を積み重ねることにより、受動的な生徒が自発的にやりたいことを視線で伝えることが増えた。
- ・4つの選択肢の中からやりたいことの順番を伝えることができるようになった
- ・日々の関わりの中で、発声や笑顔を通して自分の選択を伝える機会が増えた。